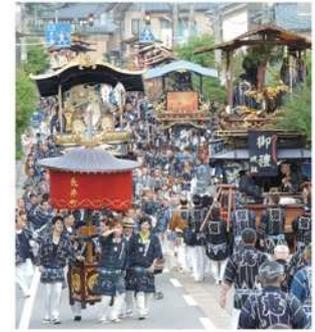


## (2)昔から続く村上市の祭り

村上市で昔から続いている祭りは、どのようなものだろう。

### 村上祭

1633年6月7日に、村上城主であった堀直奇が、羽黒神社を臥牛山の中腹から今の場所（羽黒町）にうつしました。その引っ越しのおいおいをしたのが村上祭の起こりと言われています。宵祭が7月6日、本祭が7日に行われます。おしゃぎりは全町内を合わせると19台です。内訳はしゃぎり屋台が11台、囃子屋台が6台、にわか屋台が2台です。



おしゃぎり

### ①荒馬十四騎のいわれ

1588年、当時の村上城主であった本庄繁長は、山形県の庄内地方（鶴岡市、酒田市方面）に攻め入り、庄内軍をうちやぶりました。荒馬十四騎はこのときの戦に勝って村上に引き上げてきた様子を表すものだとされています。



荒馬十四騎

### ②国指定重要無形民俗文化財に

2018（平成30）年3月に、「村上祭の屋台行事」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。これまで新潟県では、村上祭のような山・鉾・屋台行事は国の文化財の指定がありませんでした。村上祭は、周辺地域に大きなえいきょうがあり、こうした城下町のお祭りや山・鉾・屋台行事の広がり、大きな役わりをはたしたとみとめられたのです。



重要無形民俗文化財の指定を喜ぶ地域の人々

### 村上まつり保存会の人のお話

重要無形民俗文化財の指定に向けて、19町内での話し合いを何度も行いました。不安に思うこともありましたが、全町内で文化財指定に向けて気持ちを一つにして取り組みました。指定を受けたときはとてもうれしく達成感がありました。子どもたちには、このすばらしいお祭りを次の世代、次の世代と受けついでいてほしいですね。

### お父さん・お母さん世代の人の話 1980年生まれ

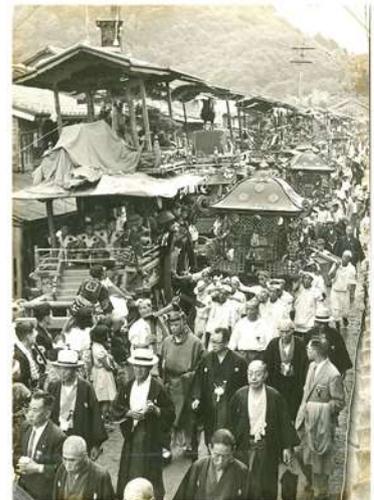
わたしが子どもの時は、今の倍くらい子どもがいました。今はへったなあと思います。屋台のかざり付けも少しごうかでした。そのころは、2階の手すり部分に弓はりちょうちんをつけていましたね。屋台のロープも短くなっています。見送り松は昔から変わらずついていますね。お祭りの練習は、昔は屋外でしていました。中学生になって笛を覚えてくると、大人に呼ばれるようになって、仲間入りをしたようでお祭りがもっと楽しくなりました。学校の帰り道に、友達と村上じん句を練習したのを覚えています。お祭りを好きな気持ちと村上を好きな気持ちは同じだと思います。その気持ちをわすれないでほしいですね。

### おじいさん・おばあさん世代の人の話 1960年生まれ

屋台の曳き回しの時間やコースは今とほぼ同じです。どの町内も、今より大勢で屋台を引っぱっていました。小学生の人数も今よりとても多くて、乗り子も男子だけで十分でした。そのころ、女の子はまだ屋台に乗ることはできませんでした。小学校1年生ごろは20頭ほどいたご神馬もだんだん数がへっていき、中学生になるころにはいなくなりました。友達と屋台の高さくらべをしたり、屋台の順番やはっぴのもようを覚えて言い合ったりしていました。町内の大人の人が親切に教えてくれたり、お世話をしてくれたりして、とてもかっこよかったことを覚えています。早く自分も大人になって屋台を曳き回したいと思いました。



1930年ごろの村上祭



1956年の村上祭